デザインと技術の折り合いのとれた家具造り

有限会社 福山工芸
専務取締役 福山 貴文さん

大川で七十年以上の歴史をもつ木工所、(有)福山工芸にスポットライトを当ててみた。景気低迷の中、安定した受注を確保している企業だ。

福山工芸の特長の一つは、ユニークなデザイン。三代目で専務の福山貴文さんは、「デザインには力を入れています！」と話される。他のメーカーには見られない個性的な家具が多い。それは京都のデザイン事務所とタイアップして、デザイン性豊かな家具を作り続けているからだ。

七年前から共同制作をしている京都のデザイン事務所は、ネットショップも運営している。現在その売り上げが好調だという。

そこのデザイナーたちは、ネットショップを手がけている関係で、売れる商品、その傾向についての豊富なデータを持っているのだ。企画・デザインにそれが反映してくるのだ。

しかし、「こだわりの家具」は、このデザイナーグループとの「押し合い」の中で生まれてくると福山さんは言う。

「先方は、販売面、デザイン

Sharme

面で自負があります。しかし、私たちは、技術面、木の特性を知る面ではプロです。過去に別注家具製造に携わってきた経験もあります。そこで『押し合い』が生じるのです。」

どういうことだろうか？

「家具の特定部分のデザインについて、それが美しく見えても、強度が弱く、破損などの原因になることがあるのです。彼らのこだわりに流されれば、最悪の場合メーカー不良になる可能性さえあるのです。そうなると元も子もありません。そこで協議をしながら、着地点を見いだしていくのです。」

このようにして年に四～五シリーズぐらい、展示会のタイミングに合わせて試作をするという。現在ネットショップに供給している商品が全体で五十％を占めている。

Esse

それらの商品のほとんどはコンパクトなサイズ。しかもリーズナブルな価格設定だ。かといって品質を落とさない努力もしている。

福山工芸の別の特長は、OEM生産。売り上げの四十％を占める。これは技術力の裏打ちともいえるだろう。

こうして話を聞いてくると、福山工芸が、「時代の流れに対応した商品づくり」を行っていることがよく分かる。

その点を聞いてみたが、福山さんは、「強い意志を持って選択をしてきたというより、自然体、時流に対応する柔軟な姿勢を持っていたからではないでしょうか…。」と話す。

また、安定経営のための経費節減も徹底している。工程表に従い、時間内に仕事を終わらせる。残業はしない。節電にも徹している。震災前から取り組んでいる。「三年前に、各部屋、各場所の照明を細分化しました。そしていらないところは極力スイッチを切るようにしています。」という。

さて、福山さんの趣味は読書。野球の監督経験者の本が好きだ。とりわけ、野村克也氏の著作を好む。「野村さんが行う状況分析や指導法などは仕事や生活にいろいろな場面で、適用できると考えています。」

Weet

夢は何だろうか。

「まずは、この経営状況を維持することが一番と思っています。非常に難しい時代ですから…。それから、これは本当に理想なんですけど、アンテナショップを作って対面販売ができるようになればいい、と思っています。そして、工房的な感覚の商品作りにも挑戦できればと思います。」

Byon